

一 般 質 問

令和 7 年 3 月 6 日
第 1 回広尾町議会定例会

通告 順序	議席 番号	質 問 者
1	7	志 村 國 昭
2	6	松 田 健 司
3	4	雄 谷 幸 裕
4	2	尾 矢 利 昭
5	1 0	前 崎 茂
6	1 2	山 谷 照 夫

1. 選挙公約達成のための取組と現状について

有権者に示された公約達成のための取組をどう進めているか。

また、現時点における町民の反応をどう捉えているか次の4点について伺う。

- ①「防災公園について、一から議論をやり直す」ことについて、公約を反故にし、強引に進めようとする姿勢に憤りを感じている町民が多い。「主権者たる町民の理解を得られていない」との認識はあるのか。
- ②「キャンプ場、道の駅の開設に取り組む」と言われていたが、現時点での取組状況が伝わってこない。進捗状況は。
- ③住民サービスの向上にもつながる役場の職場環境について「明るい職場づくり」など何点か掲げていた。しかし、町長就任以来、中途退職者が多いという異常な状況にあるが、どのように受け止めているのか。
- ④「国保病院における人工透析センターの早期実現」については、治療を受けている本人はもちろん、家族や地域からも大きな期待が寄せられていた。しかし、国保病院第2期中期目標期間内での実現見送りが早々に発表され、期待に対する落胆は計り知れない。令和8年度目標期間内での状況好転への努力と今後実現に向けた積極的な取組の姿勢について伺う。

1. 既存公園の管理と集約について

将来的に人口の減少が見込まれる中で、コンパクトで合理的なまちづくりを考えていく視点から「既存公園の環境整備や保守点検は継続するが、場合によっては集約も検討する」との発言が町長からあったが、公園を集約するにあたっての基準や考え方、継続する公園の環境整備における今後の計画を伺うとともに、町民からも強い要望のある既存公園トイレの刷新について伺う。

また、同じく町民要望がある「小学校を有する豊似地区に子供が遊べる公園がない」ことへの見解も併せて伺う。

2. フンベ地区の環境整備について

令和6年6月25日に指定された日高山脈襟裳十勝国立公園では、字フンベ地域からビタタヌンケ地区までが保護規制計画上の特別地域に指定されている。特にフンベ地域には本町を代表する景勝地であるフンベの滝や全国的にも有数のサーフスポットがあり、また、基幹産業であるコンブ漁の中心地でもあるが、これらすべてが本町の体験型観光のコンテンツとしても活用されている。

しかしながら当該地域における、国立公園と絡めた形でのマナーやモラルの啓発がなされないまま今日まで来ている現状から、次の2点について伺う。

①フンベ地区からビタタヌンケ地区までの海岸線は国立公園内特別地域であることを明記し、モラルやマナーを啓発する看板等の設置について

②フンベ地区海岸線のトイレ整備について

3. 町政執行方針について

町政執行方針の子育て支援のところで放課後児童クラブについてあったが、豊似小学校に放課後児童クラブが設置されていないことへの見解を伺う。

通告順序3 質問者：雄谷 幸裕

1. 書かないワンストップ窓口等DXの推進について

国では、令和2年12月に自治体DX（デジタルトランスフォーメーション）推進計画を策定し、令和6年4月には第3.0版に改訂され、各種手順書も示されている。自治体DX推進計画の「自治体フロントヤード改革の推進」の中で、「書かないワンストップ窓口」の実現を推進している。

北見市では、窓口サービス改善の取組として「書かないワンストップ窓口」が導入され、町民にとっては1か所で手続きが終わり、何度も同じことを言わなくてよく、手続き漏れがなく案内される。職員にとっては窓口の対応時間が減り、他の内部事務や専門的な業務に注力することができるようになったようである。

「書かないワンストップ窓口」を例に挙げたが、様々な地域課題の解決や町民サービスの維持・向上を図っていくためには、デジタル技術を積極的に活用して、町民目線での行政手続きの簡略化や徹底的な業務プロセスの見直しを行い、行政事務の効率化を図るべきである。

国では財源手当も用意されているが、行政サービスを進める上でのDXの推進をどのように考えているか伺う。

2. 町政執行方針について

第6次行政改革大綱策定の進捗状況はどうなっているか。

3. 教育行政執行方針について

海洋博物館を登録博物館として存続させるかどうか、検討の進捗状況はどうなっているか。

オオバナノエンレイソウの植生状況の把握や保全活動を令和7年度は具体的にどのように実施するか。

通告順序 4 質問者：尾 矢 利 昭

1. 現在、運休しているサンタ号について

現在、運転手不足により運休しているサンタ号であるが、コロナ前の6年間では1便あたり約10人と、十勝バスの広尾線やJRバスの日勝線よりも利用者が多く、広尾町と札幌市を結ぶ重要な地方の交通機関として私は認識している。

これまで町は運行する企業との間で再開に向けた要望や協議を行ってきていると思うが、現段階で何か回答が得られているのか、また町として今後の見通しをどう捉えているのか伺う。

2. ふるさと納税の取組について

多くの自治体がこのふるさと納税制度をチャンスと捉え様々な取組や工夫をし、北海道内でも寄付額が数十億円、また中には100億円を優に超える自治体もある一方、本町では昨年度、約7,100万円と雲泥の差がある。大変メリットのある制度だと思っており、また町長も昨年の町長選挙の際、ふるさと納税の見直しを図ると公約を掲げている。

そこで、これまで本町の寄付額が振るわなかった原因は何だと考えているか。また今後、何か提案や計画があれば併せて伺う。

1. 防災公園整備計画のグランドデザインについて

昨年 1 1 月の議員協議会で防災公園の整備計画の見直し案が提示されたが、防災機能を全て削除し、「防災」の文言も抹消したところである。1 2 月の町民説明会に参加した町民から、7 月の町民説明会でまちづくり計画の根幹に係る防災倉庫を含む防災機能を削除した内容に、納得し難い等の声が寄せられている。また、1 2 月定例会の一般質問で防災倉庫や観光交流施設、道の駅について今後検討したいとのことである。そこで、

- ①日本海溝・千島海溝沿の巨大地震により、30 年以内に 20 m を超える津波が本町沿岸部に襲来すると想定されていることから、防災倉庫は、先送りすることなく計画通りに必要と考えるが。
- ②第 6 次まちづくり推進総合計画の基本構想では、「災害対応機能を有した公園づくりを進める」とし、基本計画では前期 5 年間の事業として、「防災公園を整備する」と策定したところである。先の答弁でも防災倉庫は今後検討することとのことであるが、基本計画等は議会の議決事項であることを含め、防災公園の位置づけは必要ではないか。
- ③まちづくり総合計画の基本計画に、広尾町の魅力拠点として観光交流施設をつくるとしている。将来的に「道の駅」も視野に入れるとあるが、先の答弁でも、公園内にこれらの施設を検討するとのことだが、防災倉庫や観光交流施設整備について今後検討するではなく、今からきちんとした総合的なグランドデザインを策定すべきではないか。

2. 人工透析治療施設の再構築の展望は

1月15日に開催された第1回町議会臨時会で、国保病院の中期目標のうち、透析治療体制が先送りされたところである。主な要因が、看護師が令和8年度の目標である35人に対し、現在の在籍数は24人と、10人超の不足が生じているとのことである。本町の透析治療を受けている方は20人を超えており、議会としても患者の皆さんからの「人工透析施設の開設要望」を受け、令和3年9月定例会で趣旨採択をしたところである。

町としてもこれを踏まえ、「課題はあるが検討を進める」とし、令和5年度からの国保病院第2期中期計画に、人工透析を速やかに体制整備するとして令和7年度に1.5億円の事業費を計上している。町は断念したわけではないとの説明だが、町長の公約である人工透析治療の開設に期待していた患者、家族、町民の方からも早期事業再開を望む声が多く寄せられている。今後の本事業の再構築の展望について伺う。

通告順序6 質問者：山 谷 照 夫

1. G I G Aスクール1人1台端末の対応は

国の「G I G Aスクール構想」に基づき令和2年度に児童・生徒に1人1台のタブレット端末が整備されている。

令和6年7月の総務常任委員会所管事務調査で「I C Tを活用した学びについて」調査を行い、その際に広尾小学校での授業の様子を視察させていただいたところである。

昨年 of 新聞報道等にもあったが、児童・生徒の1人1台端末の故障が増加し、修繕費の財政への圧迫が懸念されているとのことである。

本町の本年度の主な故障の内容、故障台数と修繕費の状況は。併せて、1人1台端末の更新計画を伺う。